

令和3年度文化審議会文化財分科会企画調査会(第2回)ヒアリング資料

選定保存技術・装潢修理材料・用具製作保存団体
一般社団法人伝統技術伝承者協会理事長
選定保存技術・美術工芸品鋳金具製作保持者
松田 聖

1 一般社団法人 伝統技術伝承者協会の概要

(1)選定保存技術・装潢修理材料・用具製作技術

・装潢修理技術

国宝・重要文化財(美術工芸品)のうち、主に絹や紙を材料とする絵画や書跡・典籍・古文書・歴史資料分野などの文化財を修理する技術。

・装潢修理材料・用具製作技術

装潢修理を行うために不可欠な伝統的な製法・技術により製作された高品質な材料や、修理技術の発展に応じ最適化した品質・形状をもつ用具を製作する技術。

・装潢修理材料・用具製作技術の現状

これらの材料・用具に対する需要が激減し、各分野全般に製作者の減少、高齢化が顕著に進行中。伝統的かつ高品質の材料・用具の供給や製作技術の伝承が危ぶまれる。

(2)一般社団法人 伝統技術伝承者協会

・設立、事務所の所在地

平成 22 年設立。京都市。

・目的

装潢修理になくてはならない、「伝統技術を用いて製作される道具・材料類」の製作や生産体制の維持、継承、拡充を図る。

・事業

後継者等育成支援、材料・用具確保、研修会開催等の事業を継続的に実施。

・会員

伝統技術による材料・用具の製作者 47 名を会員とする。他に後継会員 33 名。

・技術の分野

紙・染織・木工・漆工・金工・唐紙・用具・その他に分類。多岐にわたる点が特徴。

2 会員の現状と課題～令和 3 年 10 月実施のアンケート調査の結果をもとに～

(1)技術継承の現状(後継者の状況と売上額)

①後継者の有無

・約 3 割が後継者不在

②売上額

・600 万円／年以下の零細な事業者が、一定程度存在

③文化財修理関係の売上額の割合

・半数の事業者は、文化財修理関係の売上額の比率が半分以下(分野により差異)

④経験 10 年未満の後継者がいる事業者の売り上げ額

・6 割が 1,400 万円／年円以上の売上有る事業者

⑤後継者の従事年数

・約半数が 10 年未満

⑥10 年間の売上額及び損益額の変化

・全体としては横ばいから減少傾向を示す

(2) 入手困難、もしくは不安視される用具・原材料

①紙・唐紙

- ・原材料 楮(那須楮、土佐赤楮)、雁皮、三桧、トロロアオイ、ノリツギなど
- ・用具 簀・桁(竹ひご、萱、金具、編糸、銅金具)、刷毛、絹篩など

②木工

- ・原材料 桐材(国産)、秋田天然杉、本紫檀・黒檀、木釘(空木)など
- ・用具 鋸、鉋など

③染織

- ・原材料 絹糸(国産)、藍、染色綿糸、木灰、綜紘材料、紙の目止め加工など
- ・用具 箔挟み、刷毛、糸繰り機など

④金工

- ・原材料 黒味銅、真鍮銅と亜鉛の合金、銅釘・銅鋳、研墨
- ・用具 鑪

⑤漆工

- ・原材料 山科地の粉、蒔絵粉、夜光貝、竹ひご
- ・用具 蒔絵筆、篋

⑥装演用具

- ・原材料 竹ひご、萱ひご、真竹、刷毛板(桧、松)、原毛(鹿毛、馬尾毛)

(3) 自由意見(抄)

①技術継承

- ・後継者育成支援(給与補助)
- ・安定的な仕事量の確保
- ・需要拡大、販路開拓支援

②用具・原材料

- ・補助金等の充実(用具・原材料の公的確保、畑管理費、害獣対策費、機材購入の補助)
- ・専門家育成支援(栽培技術の指導、原材料を確保する知識を持った人材育成等)
- ・用具生産者の育成
- ・安定した仕事量の確保(仕事の受注が見込)
- ・入手困難な用具・原材料への対応(発注量確保、国産が入手困難である場合の輸入材の検討、高品質な原材料を使用しても販売価格を上げられない等)